



JAL不当解雇撤回ニュース

No614号 2020.12.08
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局
連絡先: 航空労組連絡会事務局
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4
フェニックスビル内
TEL: 03-3742-3251 FAX: 03-5737-7819
<http://www.jalkaikotekai.com>

初！ 東京西部集会 更に大きな運動に繋げよう！



不当解雇から今年の大晦日で丸 10 年。解決を約束しながらなぜ解決しないのか！ どうしたら解決できるのか！ 誰もが納得できない中、11 月 5 日渋谷勤労福祉会館において、GJ 連絡会主催による西部集会「JAL 争議勝利に向けた 11・5 激励集会」が行われました。

指宿昭一弁護士により「コロナ禍における労働運動と JAL 争議」と題して講演が行われました（講演の内容は抜粋で後述）。続いて、各支援団体から決意表明と激励の挨拶があり、その後、争議団一人一人から各自の思いを含めた決意表明が行われました。

講演で話された「コロナ禍における労働運動の工夫や苦しむ労働者との連帯の必要性」、また「JAL 争議の運動に対するアドバイス」などに、参加者は大きな確信を持ちました。そして、JAL 争議解決に向けて更なる団結と連帯を誓い閉会しました。コロナ感染が拡大する中で、工夫しながらの集会となり 41 名が参加しました。



集会終盤では争議団全員が前列に並び、この時期に集会を開催して下さったことへの感謝の気持ちと、それぞれの思いを述べました。

集会の間には、会場でカンパが集められ、争議団に手渡されました。

今、労働運動はコロナ禍で苦しんでいる人たちと 支援・連帯関係を作れるチャンス！

指宿昭一 弁護士



「コロナ禍だから運動がしづらい」という声をよく聞く。コロナ禍の中で苦しみ、明日解雇されるかもしれない恐怖におびえている労働者がいる中で、JAL 争議だけでなく、労働運動は不利な状況におかれているのだろうか、逆に私は大きなチャンスだと捉えている。なぜなら、これまで「解雇」を人ごとのように思っていた人たちが、自分や家族の今日、明日の問題として感じている状況で、大きな共感を呼ぶことができるのではないか。労働運動の側からそうした人たちと相互の支援・連帯関係が作れるのではないかと思う。今、普通の労働者がナチュラルな声をあげ始めている。これまで培ってきた労働運動の質を変えながら結びつき、飛躍のチャンスにしていくことができる。

労働組合の労働運動は、情報発信の仕方が下手だと思う。旧来の労働運動が培ってきた集会や情宣活動は影響力があり貴重なのでどんどんやるべき。しかし、今まで我々の声が届かなかった人、あるいは、我々が声を聞けなかった人たちと繋がるような新しいやり方で、出会いや関係を作ることができるのではないか、ということをご提案したい。

メディアは労働組合の闘いをあまり取り上げない。メディア批判に陥りやすいが、それでは何の発展性もない。どうしたら理解してくれるのか。SNS の活用やユーチューブ、レイバーネット TV 等色々なやり方があるのではないか。「せやろがいおじさん」の YouTube 映像が検察庁法案を廃案に追い込む大きな力になったそうだ。

JAL 争議は ILO 勧告を勝ち取っている。大きな力であるが、国連や ILO が勧告してくれたからといって、日本政府が縮みあがって大きな改革をしてくれない。メディアも少し報道して終わり。国連や ILO の勧告を武器にして、どうやって世論をつくっていくのかは我々の手にかかっている。様々なメディアを使ったり、労働組合を知らない、興味ない人たちに、「JAL の解雇は ILO から 4 回も勧告を受けているのに日本政府は何も対応しない、これでいいの?」 と、自分の問題として捉えて貰うような情報発信を考えるべきである。

今、航空業界でも徹底した合理化、リストラが進められ、大きな社会的関心が集まっている。でも、JAL がそこまで踏み切れないのは、やはり JAL 争議があるからではないか。しかし、「コロナ禍における JAL 争議が JAL の解雇を止めているのではないか」と考える新聞記者はいるだろうか。いないから「新聞記者、だめじゃないか」と言っても何も前進しない。理解していないのなら、理解させよう。若い人たちがこうしたことを知らないのなら、どうしたら知ってくれるのか。若手の社会派お笑い芸人を使って何かやって貰えないとか。今まで私たちが知らなかった方法を使い、新しいことを作る。今そうしたチャンスが来ているのではないか。参考にして頂きたい。